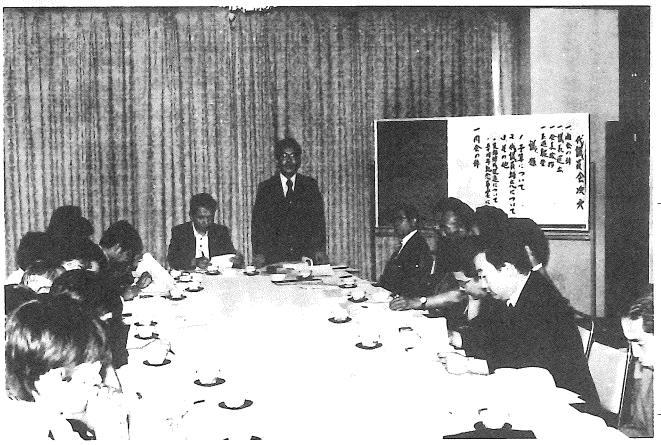
第13号
昭和52年10月1日

大阪産業大学校友会報
Osaka Industrial University

発行所　大阪産業大学校友会
（大阪産業大学内）
大東市中垣内3の1の1　〒574
電話(0720)71-1251(内線381)
発行責任者　大阪産業大学校友会　石川信男
印刷所　（株）藤井印刷店
大阪市城東区関目3丁目7-17
電話（06)932－0351(代)

「新代議員会開催す」

会則改正後の新代議員会、多数参加者の熱気の中、はなばなしく開催す。



先般、七月二日(土)、新阪急ホテルにおいて盛大に新代議員会が開催されました。今回の代議員会は、新会則に改正されて、始めて開催されました。

尚、当日の議事及び報告は次の通りです。

○開会　司会者　菱田
順次、自己紹介をする。
○議長選出　大植義夫氏
○会長挨拶　石川会長
副会長を紹介
○経過報告　杉岡副会長
議事
説明　真田副会長

(1)予算について
別記の通り承認
(2)新代議員の補充について
左記のように選出する。
(3)支部結成促進について、
現在、岡山県・香川県と大学支部の三支部があるが、せめて地方入試実施地（鹿児島・金沢・広島・名古屋）だけでも早急に結成したい。
現在の支部についても活動が乏しいので援助ねがいたいとの意見があり、前向きに助成するように予算措置を取ることにして行く。
(4)記念事業について(50周年)
学園創立50周年記念を機会に、一期生から総括した名簿を発行する。
(5)その他
学校当局の50周年記念事業計画について質問があり、杉岡副会長より説明があった。

尚、議事終了の後、直ちに懇親会に移りました。今回の出席者の中には、遠く広島より市田様、富山より御旅屋様、香川県より梅木様、徳島より青山様、岡山より光岡様と芦田様の各位が出席されました。多忙なところ多数の出席者(約40名)があり、華やかな雰囲気でとりおこなわれました。こんなに多数の方が、出席され、本部事務局で準備したホテルの室が狭く不便をかこち、申しわけない有様でした。このような盛会な代議員会の状況を見るかぎり、大阪産業大学校友会の発展は、大きく前進しております。

新代議員

川本　一夫	(27年　運)	長沢　純一	(48年土木)
針原　英喜	(41年　自)	中島　雪夫	(49年　経)
大久保　修	(41年　自)	林　茂	(50年土木)
加藤　豊	(44年　経)	田中　正之	(50年土木)
瀬野　久雄	(45年　機)	入沢　毅	(51年　機)
鈴木　幸治	(46年　経)	上垣　准三	(51年　機)
山野本俊一	(46年　経)	竹村　伴重	(51年土木)
磨家　正明	(46年交機)	金岡　正信	(51年土木)
大森　吉男	(47年土木)	加藤　史雄	(52年　経)
斉藤　雅文	(47年土木)	平佐多　敬二	(52年　機)
横江　淳一	(47年　自)		

以上二十一名

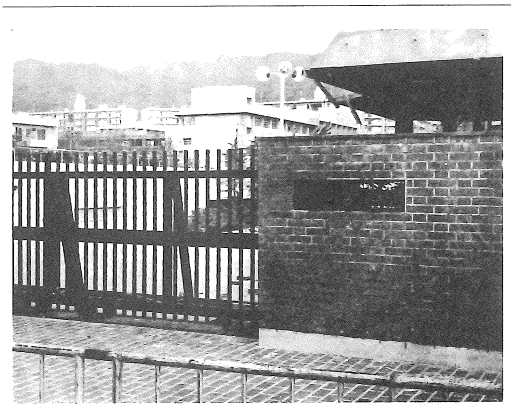
九号館、工事開始す

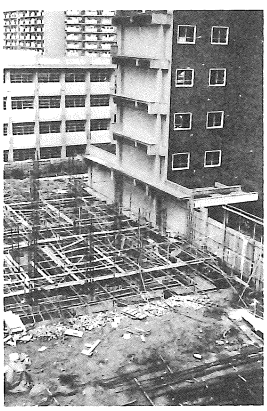
学園創立五十周年記念事業の一環として九号館の工事が七月二十七日に地鎮祭が行われ、工事が開始されました。

鉄筋コンクリート造五階建一部プレストレスコンクリート造、建築面積一三二七・〇八平方メートル、延べ面積四七八四、四七平方メートルで一階は事務室、会議室、応接室および印刷室等。二階は研究室、部長室演習室および図書室等。三階は中講義室、小講義室および演習室。四、五階は大講義室および電気室である総工費五億四千万円という立派な校舎が来年四月末に完成が予定されています。

"正門"完成す

西部キャンパス中央環状線側に学園創立五十周年記念事業の一環としての正門および駐車場の工事が九月の終りに完成しました。





創立50周年記念名簿
発行準備調査（協力依頼）

久しく待ち望まれておりました、交通短期大学第一期卒業より現在に到る校友会名簿を、50周年を記念し発行します。

つきましては、台帳の確認と充実を図るため、会員調査を実施しますのでご協力下さい。

調査項目は同封しました葉書に記載しておりますので詳細に記入願います。

同封の不明者名簿とは校友会員でありますが、現時点で住所不明となり校友会事務局とパイプが切れております会員です。皆様方でお心当りの方はご連絡下さい。

尚、調査〆切は編集の都合上一月末日まで期日厳守下さい。

以上

50周年記念名簿作成委員会

チャイム

アフリカで砂漠化が進んでいるそうだ。この現象の大きな原因は、人口増加だという。人口が増えると水が多量に必要になり、それでなくても水が少ないこの地方の、いたる所に井戸が掘られ、地下水までも汲み上げてしまうものだから、地上の植物にまで水がいきわたらず、ついに、枯れてしまう。人々は、今まで生活を営んでいた土地を捨てて新たに居を構える。これに加えて、家畜の食糧の草がなくなり立木の芽まで食べてしまい、とうとう残された土地は砂漠と化してしまう。こういう記事を新聞で読み、筆者は、破漠を作っているのは一種の人災だなと、同情したり、感心したり。この砂漠化問題を人類の英智がいかに解決できるか。その試みとしてスーダン政府は、少ない国家予算の中から砂漠に木や草を植え緑を取りもどし、人が住めるような環境作りをしてはいるものの、一国単位の力ではもう、どうにもならない所まで来てしまっていると言う。これを克服するには、各国の物心両面にわたる援助が大きなウェイトをしめるだろう……。

日本は幸いにして水はあるとしても、その使い方を考えなければ、大きな問題を引きおこすことになる。

訃報

▼工学部技術員
滝口芳太郎
昭和五十二年九月十七日死去されました。
告別式は九月十九日自宅において、しめやかにとりおこなわれました。慎しんでおくやみ申し上げます。

岡山県支部総会を開催す

秋空の美しい候、十月二日、岡山プラザホテルにおいて、岡山県支部総会が来賓を迎え、盛大に開催されました。

「足田」岡山県副支部長の司会により、次のように式の進行がなされた。まず最初に来賓の挨拶から始った。

○大西常務理事挨拶

学園の近況と将来の展望について話された。学園の発展として、学部増と学科増により全学園一万五千名規模程度にしたい計画であるとのことであった。

○石川会長挨拶

昭和45年校友会発足以後の経緯と現況について話された。又、校友会の本来的あり方については、支部結成と育成により、社会的に大阪産業大学の役割を高めて行きたい。

○堀江学生課長挨拶

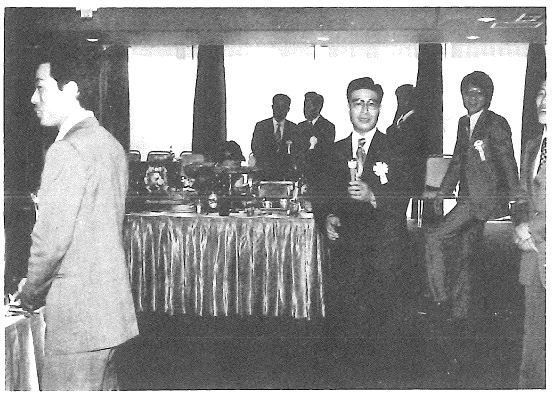
新任の学生課長であるので岡山のみなさんによろくとのこと。

○光岡支部長挨拶

支部結成以来の経過の説明と、会員には、結集するように要望があった。

司会者の提案により、支部役員の再選と、年一回の総会開催が満場一致で決定された。

その後、懇親会に移り、梅木香川県副支部長の発声により乾杯した。又、各人よりいろ〳〵な歌を披露する和やかな雰囲気の一時を過した。最後に大阪産業大学校歌を斉唱し、散会した。



支部助成規定　幹事会で決定される

七月二日の新代議員会において校友会支部結成が問題とされた。その後幹事会で支部結成について慎重に討議され、その結果校友会の発展並びに各地に支部結成することによって、校友会会員相互の懇親と連絡をもつことが促進される。現状は三支部であり今後支部結成について来だ解決しなければならない問題は数多くあるが全校友会会員皆様の支部結成の気運の盛り上りをお願いする次第です。なお支部結成についての問合せ　校友会事務局におたより下さい。並に支部結成については担当菱田まで

支部助成規程

第一条（目的）
この規定は、大阪産業大学校友会則第九章による支部の発展のため助成することを目的とする。

第二条（適用）
適用範囲は次の通りとする。
㈠結成される時
㈡総会を開催する時
㈢活動を助成するため

第三条（金額）
金額は次の通りとする。
㈠支部結成祝金　一〇〇、〇〇〇円
㈡総会祝金　五〇、〇〇〇円
㈢活動助成金　三〇、〇〇〇円

第四条（出席者）
支部結成大会、及び総会には、本部より、若干名出席するものとする。出席者に対しては、校友会旅費規程により、旅費を支給する。

第五条（その他）
この規定に定めなき事項で特に考慮すべき事が発生した時は、会長が決定し、幹事会に報告する。

附則
㈠この規定は幹事会の決議により改正する事が出来る。
㈡この規定は、昭和52年9月29日より施行する。

卒業して四年半

48年交通機械卒　増田吉信

歳月の過ぎるのは早いもので、私が大阪産業大学を卒業して高校教師になって四年半になります。今、私の在学当時の事や、この四年半を振返ってみて、私の経験をもとにして述べさせて頂きます。

在学当時、卒業したら自動車関係の会社に就職したいと思っていました。学習面に於ても、専門教科は得意でしたが、教職科目を含めて一般教養科目は不得手でした。正直言って、興味のない講義を受けること程つらいものはありません。産大は、言うまでもなく工学、経営学部専科の大学で、この種の大学で教員免許が取得出来るということは、教育課程にかなりの無理があり、教職単位を取得する学生にも労力がかゝると思います。事実、私の友人の中にも、途中で断念した者もあります。でも貧欲な私は、取得できるものは、茶道であろうと、華道でもやると心に決めて、講義を受け、全て単位を取得しました。

では、教員免許を取得すれば、実際に教員になれるかどうかであります。先ず採用試験がありますが、各都道府県によって実施日が異なり、年度によっては採用のない教科もあります。又、この試験に合格しても欠員がなければ採用されません。年度が変れば再度受験しなければなりません。

和歌山県を例にしますと、昭和四十六年に箕島高校に機械科が新設され、私は幸運にも四十八年度の採用試験に合格して採用されましたが、その後、五十、五十一年度は採用していないようです。今日の社会状況として、職業高校の重要性は分っていても、実際の父母の要求は、普通科の増設、学級増で、職業高校に於ては、学級定員を下回っている学校もあります。今やこの種の教育問題は、大きな社会問題にもなり、教育関係者に限らず、多種多面にわたり論議されていますが解決に至っていない現状で、普通科高校は増設されても、職業高校が増設されることはまずないでしょう。それでも一部府県、私学に於ては、少人数ながら採用しているところもあります。事実、産大卒の友人の中で教員になっている人が五名いますし、更に、五十年十一月に、産大卒で教職に携わっている有志が、母校に集まり、加藤先生も出席される中で、産業大学教員同友会を結成し、近況を報告し合う中で、会には出席されていないが、各府県で教員になっている方が十数名いると分りました。

産業大学で、教師になろうと勉学に励んでおられる学生諸君、決して無理なことではありません。皆さんの努力により一人でも多く仲間が増える事を期待します。私で出来る事があれば微力ながら、支援させて頂きます。

「学生々活においての人生観」

52年経営学卒　加藤史雄

人生は、大学を出るだけがすべてではないが、大学を出るということは、将来社会人として活躍する上において人生の最短距離を選んだことにつながることは確かである。

私は、このようなことから大阪産業大学に入学し、勉学に励み、また、課外活動で心身を鍛え、いろんな人達と接して人の暖かみや冷たさを味わってきた。それによって、人間的にも角がとれて、丸味をおびてきたと自分では思っている。しかし、優しくしてくれたからといって、それに甘えてはならない。また、冷たくされたからといって人を嫌ったり避けるようなことはいけないと常に自分に言い聞かせてきた。

昔からよく言われている「耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍ぶ」が好きである。つまり忍耐の一語につきる。

要するに、人間、早とちりや焦りはいけない。だから私は、じっくりと腰を据えてこれからの人生を歩んでいくつもりであります。

現在、私は、本学入試事務室に今年四月から勤務しています。

東南アジアの大学訪問記

51年交通機械卒　大仲英文

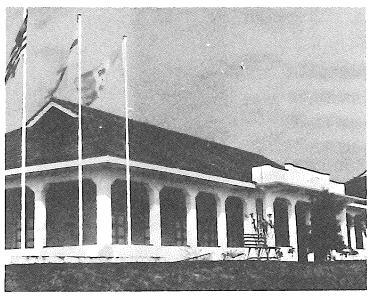
このたび、私と荒木氏の2人は、自動車工学研究室のメンバーの一員として、さる三月十五日から二十九日の十五日間で東南アジアの11ヶ所の大学、研究所を視察訪問してきた。これらの大学、研究所のうち6ヶ所で歓迎を持ち、学長の親書を届け、研究資料の交換、討論の機会を持った。このような企画は、以前より自動車工学研究室のメンバーの一員として、さる三月十五日から二十九日の十五日間で東南アジアの各大学とコンタクトしてきた結果、実施されたものである。また、この視察旅行は、つぎのような日程で実施された。

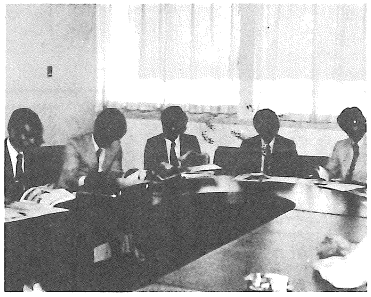
3／15大阪→シンガポール
16シンガポール大学訪問
17南洋大学訪問、シンガポール→クアラルンプール
18マラヤ大学訪問
19クアラルンプール→ペナン島
20ペナン大学見学
21ペナン島→クアラルンプール
22マラヤ工科大学訪問
ラーマン工学院訪問
23クアラルプール→シンガポール→バンコック
24バンコック↑↓パタヤ海岸
25チュラロンコン大学訪問
アジア国連技術研究所訪問
26タマサート大学訪問
27バンコック→ホンコン
28中文大学見学
29ホンコン大学見学
ホンコン→大阪

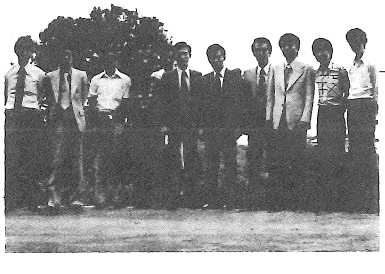
日程を文面に記すと簡単に消化できるように見えるが、実際上は分単位のハードスケジュールであった。それに加え、食事の問題も我々にはハードなものであった。これについては後述することにして、まずシンガポールに到着しての第一印象は、まだ三月末というのに真夏の夕ぐれという感じを受けることであった。ここでは、本学留学生のチュー君と彼のいとこであるリム夫妻にたいへん世話になり、また、バンコックでは本学留学生の友人であるプロのガイドのマノン氏に、ホンコンではチュー君の友人のホン氏らにもたいへん世話になった。各国でのこまかいスケジュールはすべて彼らが計画してくれていたので、どこへ行っても言語や習慣の相違に困惑することはなかったが、食事に関してはたいへんな苦労があった。それは、味も内容も日本とは違うがとくに量の多さには驚かされた。誌面の都合で詳しいことは省くが、とても日本人では考えられないぐらいの量で三日ぐらいには、その臭いをかぐだけで吐気を感じるようになり、メンバーのうち数人はホテルのレストランヘーストなどを食べに行く始末であった。もちろんその中には私も含まれていた。

食事以外の面についてはどこの国へ行っても緑が多く、空気が澄みわたっており、公害などはまだまだ考えられないような環境であった。またどの大学も郊外にあり、広大で一般公共設備も整っており、学問を志ざすものにとってはすばらしい環境にめぐまれているのがうらやましいかぎりであった。

非常にかけ足での旅行であったが各大学での交歓会や討論会の席上で今後も各大学とコンタクトしていくことを約束し、今回の旅行の目的の一つであった親善友好関係を樹立できたことは、大成功であったと思われる。

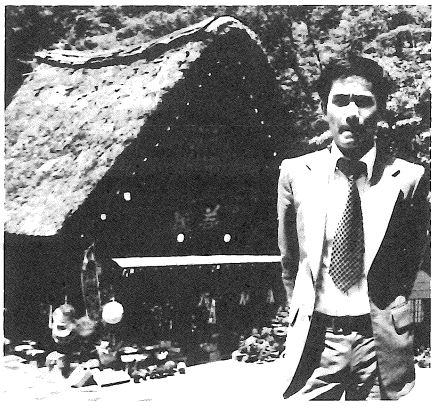






“世に出て思うこと”

47年経営卒　鳥山　栄



私は、学生時代の、就職という転期に臨んで、多少思うことがあるので、この紙面を借りて一言述べて見たい

もう卒業間近となっても、就職について真剣に考えたことはなく、言わば学生の特権の自由を充分に味わっていた。学生時代ほど良いものはなく、社会からも、学校からも、家族からも束縛されず、自分の時間を満喫していた私は、そこから抜け出そうとはなかなかしなかった。そして深く考えずに安易に就職してしまった。そんな訳だから職場も長続きせず、すでに二回も勤めを変えた。会社を何度も変えるのが良いとか悪いとかいう問題ではなく、自分自身の問題として捕え、真摯な態度でなぜ考えなかったのだろうかと悔まれる。今になって思えば、その時の態度が今まで尾を引いているとは想像もつかなかった。社会に出て、目標を持てずに働くことは忍耐のいることである。現在は、目標を立て、それに向って進もうとしている。後輩諸君、就職問題を謙虚に受けとめ大いに悩み、苦しみ、そして、より深く考えて欲しい。この現実を7

「長崎より」

52年経営卒　中島　理宏

毎日暑い日が続き諸先方、先輩方もお体には十分注意し、過ごしていらっしゃるかと存じます。私が大学を門出して、早五年の月日が過ぎました。その間跡継にもめぐまれ、社会生活を満喫しております。

大学の進歩発展の様子が、ここ長崎まで時々伝わってまいります。ありし日の下宿生活、卒研、クラブ活動等が、今では思い出となってしまいました。会社へ入社し五年、毎日〳〵が時間との戦いであり、又同一系統の仕事でもあり、時々「放ってしまいたい」と考える事がしばし〳〵です。しかし、飯の種である以上「生産性の向上」「トラブル解消」と上からあびせられては、社内の縦、横を這う様にくぐりぬけ、月々の報酬を頂いております。でなければオーバーの様ですが飢え死にはまぬがれません。

学生生活と社会人生活とは根本的に異なる事を痛感しては、生駒の裾野の追想に耽り、溜め息が出ます。ただ救われる事に心身の鍛練を色々な場面で経験し、練磨させられた大学生の頃の根性が、現在、大いに役立ち「あの頃はあんな事までしてやり通したなあ…」と思えば、こんな事ぐらいでと、自分を励ますこと再再です。先生方、先輩方、同卒の学者よ、暑い日々、体有ってのものだね、十分注意し、努力の成果を上げて下さい。私も長崎で恥じられない様、頑張っております。当地の方面へおいでの折は連絡まで、それでは失礼させて頂きます。

（長崎日産自動車勤務）

「自　信」

47年交機卒　白石　哲也

貴方は、大学生活四年間で得たものが何かありますか。と聞かれれば、今の私はたった一つだけ胸を張って言えるものがあります。それはクラブ活動を通じて得た「自信」というものです。たった一つでも、大学四年間最後までやり通したものがある、という事は後になり、私にとって大変大きな自信となりました。あれもやろう、これもやってやろう。と思って過ごしている内に、結局何にも出来ずに卒業していくより、あれだけはやり通そうという目標を自分に立て、それに向かって毎日努力していれば、卒業の時になり絶対に後悔するような事はないと思います。私が剣道部員であった頃、後輩の何人かが、勉強ができないからとか、自分の時間が持てないから、との理由で退部を申し出ていたが、その者達の大半は、クラブ活動さえも出来ないから、勉強も出来ないのではないでしょうか。又自分で時間を作る努力をしないから、無意味な時間の中でしか生活する事が出来ないのだと思います。四年間の大学生活とは本当に短いものです。その限られた時間の中でいかに有意義に一日を送るかは、自分自身でしか見つける事が出来ないものだと思います。悔いのない大学生活を送る為に、何にか一つだけでも目標を持って、大学で学ばれたらどうでしょうか。

卒業してから

52年交通機械科卒　宮井　義裕

四年で離れるはずだった大学に残って半年。講義を受ける立場から教える(?)立場に移っても産業大学に携わっていることに変わりはなく、私がこの大学に来たときの事を想い出すとともに、人間の運命の不思議さを感じさせられる。

大学に勤めるとはいかなるものなのか。しかしこれは、私の場合先生方や先輩達も講義等で顔を見知っていたし、同期の仲間もそのほとんどが本学出身であったり、以前に会っていたりという者で、新鮮味に欠けるところはあるものの、新しい職場に対する不安はなかったと言える。技術員の仕事としては実験・実習や卒業研究の補助のほか各自の研究というものがあるが、半年にしかならない私には目標はなくもっぱら先生の研究を手伝っているが、電子計算機の使用や写真の現像・焼き付け等今まで行なう機会のなかった事を勉強できるのも大学に勤めればこそであろう。大学の四年間に感じられなかった充実感はあるが、通いなれた大学にいることで学生時代を抜けきれない現在ではある。

校友会活動報告

52年 2月28日　学内幹事会
52年 3月 3日　幹事会
　場所　新阪急ホテル
　議題(1)昭和52年度予算(案)について
　(2)その他
　創立者米寿お祝について
52年 3月20日　卒業生に記念品の贈呈
52年 4月 8日　学内幹事会
52年 4月11日　入学生に記念品の贈呈
52年 5月23日　学内幹事会
52年 6月 2日　学内幹事会
52年 6月10日　幹事会
　場所　新阪急ホテル
　議題(1)予算(案)について
　(2)第一回代議員会について
　(イ)開催日について
　(ロ)学外代議員の補充について
　(3)各事業部に於ける検討事項
　(4)その他
52年 7月 2日　代議員会
　場所　新阪急ホテル
　議題(1)予算(案)について
　(2)新代議員の補充
　(3)支部結成促進について
　(4)記念事業について(50周年)
　(5)その他
52年 7月15日　学内代議員会
52年 9月14日　学内幹事会
52年 9月26日　学内幹事会

昭和51年度決算

収入の部

科目	予算額	決算額	摘要
前期繰越金	1,297,524	1,297,524	
校友会費	21,910,000	21,924,000	50年度卒業生他 2,000×7名 51年度入学生 10,000×2,191名 総会出席者 2,000×56名 友者会 1,000×12名
会費収入	170,000	124,000	
預り金	22,000,000	13,160,000	52年度入学生10,000×1,316名
雑収入	1,000,000	997,516	寄付金、利息他
合計	46,377,524	37,503,040	

支出の部

科目	予算額	決算額	摘要
会議費	750,000	1,061,339	△ 311,339
通信費	1,200,000	886,990	△ 313,010
印刷費	120,000	132,320	△ 12,320
備品費	60,000	48,900	△ 11,100
旅費交通費	300,000	80,000	220,000
慶弔費	80,000	121,000	△ 41,000
消耗品費	300,000	197,934	102,066
会員名簿	500,000	500,000	0
機関誌	720,000	377,000	343,000
記念品費	1,125,000	624,500	500,500
学生助成金	400,000	200,000	200,000
支部結成準備金	200,00000	0	200,000
調査費	50,000	0	50,000
記念事業費	0	0	0
事業費	1,000,000	583,600	416,400
人件費	1,000,000	450,300	549,700
雑費	150,000	96,130	53,870
予備金	422,524		422,524
小計	(8,377,524)	(5,360,013)	(3,017,511)
積立金	16,000,000	16,000,000	0
次期繰越金		2,983,027	2,983,072
預り金	22,000,000	13,160,000	8,840,000
合計	46,377,524	37,503,040	8,874,484

昭和52年度予算

収入の部

項	52年度予算	摘要
前期繰越金	2,983,027	
校友会費	21,000,000	52年度入学生10,000×2100名
会費収入	150,000	総会出席者他 2,500×60名
預り金	13,000,000	53年度入学生10,000×1300名
雑収入	1,000,000	寄付金、利息他
合計	38,133,027	

支出の部

会議費	520,000	代議員会(年2回) 幹事会 学内幹事会 学内代議員会 各事業部門における会議費
総会費	800,000	総会時の懇親会への支出金 余興費
通信費	1,200,000	機関誌発送 代議員会案内 幹事会案内 電話代 その他事務連絡上経費
印刷費	180,000	記念名簿作成のためのハガキ印刷費1次調査 2次調査 甘楽集落上の印刷費 会議並びに幹事会、総会等の印刷費
備品費	50,000	裁断器(押し切り) 茶棚 ポット、コップ等 呑箱
旅費交通費	300,000	代議員会 幹事会 支部出張 調査出張
慶弔費	50,000	
消耗品費	300,000	大封筒 小封筒 カードタイプ
会員名簿	600,000	昭和52年度卒業生用名簿
機関誌	400,000	卒業生並びに会員用 新入生用
記念品費	700,000	卒業証書ファイル 新入生ソノシート
学生助成金	400,000	クラブ助成
支部結成準備金	100,000	
調査費	650,000	記念名簿発行のための調査 一次調査 二次調査 各事業部門の調査費総計
記念事業費	300,000	両側キャンパスの整備並びに9号館の完成
事業費	800,000	テント
人件費	1,200,000	ハート、アルバイト機関誌発送 アルバイト名 簿作成資料整理 アルバイト名簿発送
雑費	150,000	
予備金	433,027	
小計	9,133,027	
積立金	16,000,000	
預り金	13,000,000	
残金		
合計	38,133,027	

会館建設準備金

49 年 度	6,000,000
50 年 度	6,000,000
51 年 度	16,000,000
合 計	28,000,000

会館建設準備金(受取利息)

50 年 度	275,266
51 年 度	716,373
合 計	991,639

昭和52年度　大阪産業大学校友会

総会案内

●日　時　11月5日(土)

総　会　PM3:00～4:00

懇親会　PM4:00～6:00

●ところ　大阪リバーサイドホテル

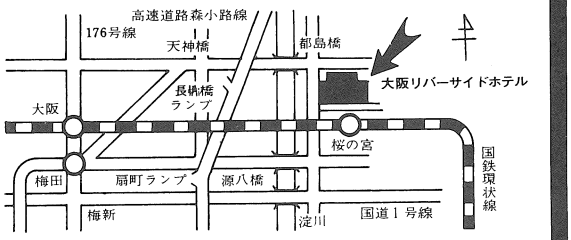
●会　費　￥2,500

大阪リバーサイドホテル

大阪市都島区中野町5－10－160

TEL 06(928) 3251(代表)

会場案内図



環状線「桜の宮」駅前　都島大橋より南50m

◈総会当日ご出席の方は、ホテル付近に駐車場がございませんので、電車・バス等の交通機関をご利用下さい。

出席カードの整理

52年交通機械卒

平佐多　敬二

私は今年工学部技術員として本学に就職しました。仕事の一つとして、レポート、出席カードの整理をしていますと、あまりのひどさにムカッとする時、思わず吹き出す時があります。友達の出席カードを出してやる時、事前に頼まれたものは別として、その場で思い立って出した時などには、(みなさんの中にも経験者がおられたと思います。私自身云える立場ではありませんが、私も経験者です。)苗字だけのもの、学籍番号が違うもの、同じ筆跡のカードが続けてあったり、不思議にも同一人物二人もいたり。整理する私には、一枚の小さな出席カードから色々な想像が湧き、一枚のカードの中にも一つのドラマが演じられているようだ。単純な仕事はたしかにしんどいですが、その中からも私に何かを教えてくれているのでしょう。

頼まれもしないのに、気を回し過ぎて失敗するという事がありますが、これらもその類ではないでしょうか。仕事はよく確かめてからしなくては。

オムロンソフトボール大会

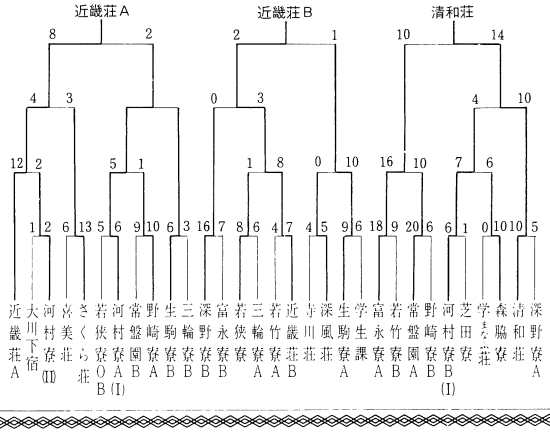
優　勝　近畿荘A　準優勝　近畿荘B　三　位　清和荘

第9回・大学寮・下宿ソフトボール大会で
近畿荘Aチームが優勝

恒例の大学寮、委託寮および、下宿対抗のソフトボール大会が、梅雨の雨間の快晴にめぐまれて、去る七月三日、参加三一チーム約五百名が集い、大学第一グラウンドを中心に、盛大な若人の祭典が行なわれた。この大会も年を追うごとに、内容も充実し、各チーム共地方出身者ということもあり、真剣な中になごやかさがあり、例年のように弁当をつつきあったり、木陰でお国言葉で雑談したり、応援も相手チームを応援する一幕もあり、大変有意義な一日であった。

本年は各ゾーンの勝者三チームによる決勝リーグとなり、昨年度優勝の近畿荘Aチームと、近畿荘Bチーム、清和荘チームの対決となった。清和荘は良く健闘したが実力のある近畿荘の壁は厚く、今一歩で追加点がとれず、三位にとどまり、優勝は近畿荘Bチームが棄権したため、近畿荘Aチームが昨年に続き、二年連続優勝となった。

宿舎係　高瀬一壽



編集後記

夏休みも終り、前期試験、そして四年生にとっては就職試験。某紙に関西大学、大阪大学他いくつかの大学の求人状況が書かれていた。それらの大学では、不況が続く中、就職担当者の心配をよそに、昨年を上まわる求人数があるらしい。大企業就職の高望みは出来なくなお前例の場合には、先輩からいわれており、当然整理の対象にはなっておりませんことを付け加えておきます。

とも、本学友の就職率が100%に達する様、心から祈りたい。

本校友会が益々発展し、会員諸氏の多くが、社会的に高いポストに着かれ、卒業生に便宜をはかる。そんなことを夢見、切実に願うのがこれからの季節である。

(T)

機関紙発行部

編集委員メンバー!

◎真田卓克(12期)
馬込正勝(産2期)
田中武雄(産3期)
金丸勝春(産4期)
大久保修(産5期)
太田充紀(産7期)
西　博行(産8期)
上垣淮三(産8期)

入学案内

大阪産業大学
同　短期大学部

〔募　集　要　項〕

●募集学部　経営学部
工　学　部（Ⅰ・Ⅱ部）
短期大学部

●試　験　日　推薦入試　工　学　部　昭和52年12月11日(日)
経営学部　12月10日(土)　・
短期大学部は書類選考 一次入試は昭和53年2月11日(土)
試　験　地　本学・名古屋・金沢・高松・広島・鹿児島
二次試験は昭和53年3月11日(土)

●学校案内　〒574　大東市中内垣3－1－1
大阪産業大学入試事務室
TEL 0720(71) 1251 (内線203・209)

入学案内

大阪産業大学高等学校

〔募　集　要　項〕

●募　集
●募集科　普通・商業・土本・電気・自動車・機械の各科

●試　験　日　昭和53年2月15日(水)　筆記試験
16日(木)・17日(金)　面接試験

〒536　大阪市城東区古市1－20－26
大阪産業大学高等学校入試係
TEL 06(939) 1491代表